ちゃと名大

渋沢栄一と名古屋帝国大学初代総長渋沢元治

このたび、近代日本を代表する実業家である渋沢 栄一が、新しい一万円札の肖像に選ばれました。この 渋沢栄一の甥が、名古屋帝大初代総長の渋沢(正式に は澁澤)元治です。元治にとって栄一は、単に伯父と いうだけではなく、その人生に大きな影響を与えた人 物でもありました。

栄一は、埼玉県榛沢郡 (現深谷市など) 有数の豪農 渋沢家の長男でしたが、家督を継ぎませんでした。そ こで、一族の市郎を栄一の妹真の婿に迎えて渋沢家の 当主としました。市郎と貞の長男として生まれたのが 元治です。

地元の小学校を卒業した元治は、尋常中学校進学の ため上京を望みますが、父市郎は、豪農であっても 農家の跡取りに学問は必要ないと進学に消極的でし た。これを説得したのが、栄一と母貞です。元治はさ らに高等学校に進むことを望みますが、これにも市郎 は反対しました。この時も栄一・貞兄妹の口添えがあ り、元治は第一高等学校に進学することができまし

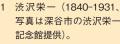
た。市郎は、農科を選択することと、大学卒業後は家 に戻ることを進学の条件にしましたが、元治は意志を 貫き、一高在学中に工科に転科、東京帝国大学では電 気工学を専攻しました。

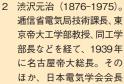
その後も栄一は、大学卒業直後の元治を約1ヵ月の 朝鮮旅行に同行させたり、元治に足尾銅山古河鉱業所 への就職を斡旋するなど、援助を惜しみませんでし た。元治の1902(明治35)年から1906年にかけての欧 米留学も、栄一の勧めによるものでした。もっとも、 栄一は元治に実業界に入ってほしかったようですが、 元治は官僚から学者になる道を選びました。

1929(昭和4)年、元治は世界の電気工学者にとって 最高の栄誉と言われたアメリカ電気学会名誉会員に選 ばれました。この時、数え90歳の栄一は、来日した 同学会前会長らを自邸に招待し(写真5)、そこです こぶる上機嫌に40分にも及ぶ挨拶というより演説を したというエピソードが残っています。

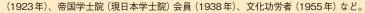












- 3 元治の母貞(1852-1910)。兄栄一とは12歳も年が離れているが、互いに歯に衣を着せずに話 し合える仲であったという。
- 4 元治の父市郎(1847-1917)。村会議員、村長、県会議員などを歴任し、地域の発展に力を尽 した。
- 5 1929年、世界工業会議に来日したアメリカ電気学会前会長らを招いて、東京の王子飛鳥山 の渋沢栄一邸で開かれたパーティーの記念写真。前列中央の栄一の表情も満足そうに見える。 栄一の右後ろが元治、右隣2人目が元治の妻孝子夫人。



0000



名古屋大学基金の



名古屋大学が優れた人材輩出や世界的な研究成果により、今後も日本や地 域に貢献し続けるには、安定した独自財源が必要です。「名古屋大学基金」 はその基盤であり、皆様からのご寄附を、さまざまな事業に活用させてい ただきます。何卒ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

Eメールkikin@adm.nagoya-u.ac.jp) にお願いいたします。

詳しくはホームページをご覧ください。

ご寄附のお申込み、お問い合わせはDevelopment Office (DO室) あて (電話052-789-4993、



特定基金







特定してご寄附いただける事業もご用意しております。



名古屋大学基金の中には、研究推進や人材育成など、支援目的を













